



制限事項と制約事項

- [制限事項と制約事項 \(1 ページ\)](#)

制限事項と制約事項

- 自動ネゴシエーション：1G トランシーバを使用するイーサネット管理ポートの SFP+ インターフェイス (TenGigabitEthernet0/1) は、自動ネゴシエーションをサポートしません。
- コントロールプレーンポリシング (CoPP)：system-cpp policy で設定されたクラスがデフォルト値のままの場合、それらのクラスに関する情報は **show run** コマンドで表示されません。代わりに、特権 EXEC モードで **show policy-map system-cpp-policy** または **show policy-map control-plane** コマンドを使用してください。
- コンバージェンス：C9606R シャーシの スロット 3 に取り付けられているアクティブなスーパーバイザモジュールを取り外す際、SSO におけるコンバージェンス時間が長くなります。
- C9606R シャーシ上の Cisco Catalyst 9600 シリーズ スーパーバイザ 2 モジュール (C9600X-SUP-2) は、RPR 搭載のクラウドスーパーバイザをサポートしていません。
- ハードウェアの制限 (光ファイバ)：
 - CVR-QSFP-SFP10G アダプタを搭載した C9600-LC-24C ラインカードの取り付けに関する制約事項：このアダプタは、対応する奇数番号のポートが 40GE ポートとして設定された偶数番号のポートには取り付けないでください。たとえば、ポート 1 が 40GE として設定されている場合、CVR-QSFP-SFP10G をポート 2 に取り付けることはできません。
 - CVR-QSFP-SFP10G アダプタを搭載した C9600-LC-24C ラインカードの取り付けに関する制約事項：40 ギガビットイーサネット トランシーバ モジュールを奇数番号のポートに挿入した場合、対応する偶数番号のポートは CVR-QSFP-SFP10G アダプタで動作しません。
 - 10/100Mbps の速度で動作する GLC-T および GLC-TE は、Cisco QSA モジュール (CVR-QSFP-SFP10G) ではサポートされていません。

- SFP-10G-T-Xは、ピアデバイスとの自動ネゴシエーションに基づいて100Mbps/1G/10Gの速度をサポートします。トランシーバから速度設定を強制することはできません。
- ハードウェアの制限事項（電源モジュール）：
 - AC電源モジュールの入力電圧：シャーシに搭載したすべてのAC入力電源モジュールのAC入力電圧レベルが同じである必要があります。
 - 異なるタイプの電源モジュールの使用：AC入力電源装置とDC入力電源装置が混在している場合、AC入力電圧レベルを220 VACにする必要があります。
- In-Service Software Upgrade（ISSU）
 - メジャーリリーストレイン（16.x、17.x、または18.x）内では、ISSUは3年以内にリリースされる2つのEM間でサポートされます。
 - メジャーリリーストレイン内で、ISSUは次の場合にサポートされています。
 - 任意のEM（EM1、EM2、EM3）から別のEM（EM1、EM2、EM3）へ
例：16.9.xから16.12.xへ、17.3.xから17.6.xへ、17.6.xから17.9.xへ
 - 同一EM内のすべてのリリース
例：16.9.2から16.9.3または16.9.4または16.9.xへ、16.12.1から16.12.2または16.12.3または16.12.xへ、17.3.1から17.3.2または17.3.3または17.3.xへ
 - メジャーリリーストレイン間では、ISSUは次の場合にサポートされていません。
 - メジャーリリーストレインのEMから別のメジャーリリーストレインのEMへ
例：16.x.xから17.x.xへ、または17.x.xから18.x.xへはサポート対象外
 - SMからEM、またはEMからSMへ
例：16.10.xまたは16.11.xから16.12.xへはサポート対象外
- ISSUは、エンジニアリングスペシャルリリースおよび.sイメージ（またはそれに類するもの）ではサポートされていません。
- ISSUは、ライセンスデータペイロード暗号化（LDPE）とペイロード暗号化機能のない（NPE）Cisco IOS XEソフトウェアイメージ間ではサポートされていません。
- ISSUダウングレードはサポートされません。
- ISSUではダウンタイムなしでアップグレードを実行できますが、メンテナンス期間中のみ実行することをお勧めします。
- ソフトウェアリリースで導入された新しい機能で設定の変更が必要な機能については、ISSUの実行時に有効にしないでください。
- ダウングレード後のバージョンのソフトウェアイメージで使用できない機能については、ISSUを開始する前に無効にしてください。

- QoS の制約事項

- QoS キューイングポリシーを設定する際は、キューイングバッファの合計が 100% を超えないようにしてください。
- サブインターフェイスでのポリシングおよびマーキングポリシーがサポートされています。
- スイッチ仮想インターフェイス (SVI) でのポリシーのマーキングがサポートされています。
- ポートチャネルインターフェイス、トンネルインターフェイス、およびその他の論理インターフェイスでは QoS ポリシーはサポートされません。

- セキュア シェル (SSH)

- SSH バージョン 2 を使用してください。SSH バージョン 1 はサポートされていません。
- SCP および SSH の暗号化操作の実行中は、SCP の読み取りプロセスが完了するまで、デバイスの CPU が高くなることが想定されます。SCP は、ネットワーク上のホスト間でのファイル転送をサポートしており、転送に SSH を使用します。

SCP および SSH の操作は現在はハードウェア暗号化エンジンでサポートされていないため、暗号化と復号化のプロセスがソフトウェアで実行されることで CPU が高くなります。SCP および SSH のプロセスによる CPU 使用率が 40 ~ 50% になる場合がありますが、デバイスがシャットダウンされることはありません。

- ポリシーを使用したスマートライセンス：Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2a 以降、ポリシーを使用したスマートライセンスの導入により、製品インスタンスまたはデバイスのホスト名を設定しても、Unique Device Identifier (UDI) のみが表示されます。この表示の変更は、以前のリリースでホスト名が表示されていたすべてのライセンスユーティリティとユーザーインターフェイスで確認できます。これにより何らかのライセンス機能が影響を受けることはありません。この制限に対する回避策はありません。

この制限の影響を受けるライセンスユーティリティとユーザーインターフェイスには、Cisco Smart Software Manager (CSSM)、Cisco Smart License Utility (CSLU)、Smart Software Manager On-Prem (SSM On-Prem) のみが含まれます。

この制限は、Cisco IOS XE Cupertino 17.9.1 から削除されました。ホスト名を設定し、ホスト名のプライバシーを無効にすると (**no license smart privacy hostname** グローバル コンフィギュレーションコマンド)、ホスト名情報が製品インスタンスから送信され、該当するユーザーインターフェイス (CSSM、CSLU、SSM オンプレミス) に表示されます。詳細については、このリリースのコマンドリファレンスを参照してください。

- TACACS レガシーコマンド：レガシー **tacacs-server host** コマンドを設定しないでください。このコマンドは廃止されました。デバイス上で実行されているソフトウェアバージョンが Cisco IOS XE Gibraltar 16.12.2 以降のリリースである場合、レガシーコマンドを使用すると認証が失敗する可能性があります。グローバル コンフィギュレーションモードで **tacacs server** コマンドを使用します。

- USB の認証 : Cisco USB ドライブをスイッチに接続すると、既存の暗号化事前共有キーでドライブの認証が試行されます。USB ドライブからは認証用のキーが送信されないため、**password encryption aes** コマンドを入力するとコンソールに次のメッセージが表示されず。

```
Device(config)# password encryption aes  
Master key change notification called without new or old key
```

- Catalyst 9000 シリーズ スイッチは、MACsec スイッチ間接続をサポートします。オーバーレイネットワークでスイッチからホストへの MACsec 接続を設定することは推奨されません。既存のスイッチからホストへの MACsec の実装または設計レビューについては、シスコの営業担当者またはチャネルパートナーにお問い合わせください。
- VLAN の制限: スイッチの設定時にデータと音声ドメインを定義し、スイッチスタック全体で音声 VLAN とは異なるデータ VLAN を維持するには、明確に定義された分離を行うことをお勧めします。1 つのインターフェイス上のデータと音声ドメインに対して同じ VLAN が設定されている場合、CPU 使用率が高くなり、デバイスが影響を受ける可能性があります。
- YANG データモデリングの制限事項 : サポートされる NETCONF の最大同時セッション数は 20 セッションです。
- Embedded Event Manager : ID イベントディテクタは、Embedded Event Manager ではサポートされていません。
- Cisco Catalyst 9600 シリーズ スーパーバイザ 2 モジュールでは、TCAM スペースは機能ごとには予約されません。使用可能な TCAM スペースは、機能全体で共有されます。
- ファイルシステムチェック (fsck) ユーティリティは、インストールモードではサポートされません。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。